

再編・統合の3校をつないで学校間の交流をしよう

大崎市立清滝小学校 教頭 遠藤 麻由美
enma1206@gmail.com

キーワード：小学校、交流、つくつた、コラボノート、iPad、情報活用能力

1. はじめに

栗原市はH25年度春に小学校27校が18校になる学校再編の大きな動きがあった。前任校の岩ヶ崎小学校・鳥矢崎小学校・栗駒小学校の3つの学校が再編し、新生栗駒小学校として誕生した。鳥矢崎小・栗駒小は閉校、岩ヶ崎小は閉校するものの、その校舎を利用し、新しい学校として誕生した。

本実践は3校の4年生同士が互いを知ることで再編への不安をできるだけ少なくするとともに、4月からの学校生活ができるだけ円滑に行うことができることをねらいとした実践である。(実践は2年前から実施) 3校は隣同士という環境ではあるが、直接顔を合せ交流をもつ機会は少ない。そこで、もっと互いを知る交流の場を設定したいと考え、「コラボノート」を活用したweb上での交流の場を設定した。さらに、その交流を通じて子どもたちの情報活用能力を育成できないかと考え、「つくつた」教材やiPadなどのICTを活用する実践を行った。

2. 実践について

2.1 H23年実践

(1) 4年総合「岩ヶ崎小学校のよさを紹介しよう」

再編を2年後に控え、これから一緒に学ぶこの2校の不安を少しでも解消するように、再編後に校舎として使用する岩ヶ崎小の魅力・よさを伝える学習を行った。よさを伝えるメディアとして、「新聞」「プレゼン」「ビデオ」「リーフレット」を選択し、情報活用を助けるweb教材「つくつた」(以下つくつた)を活用して実践した。

Web教材「つくつた」では、「新聞」「リーフレット」「ビデオ」「プレゼンテーション」の4種類のメディア制作活動の観点を、伝える内容を主に考える「つくる」場面、相手への伝え方を考える「伝える」場として整理してある。さらに、それぞれの観点についてのS～Cまでのルーブリック(評価基準)が示されている。さらに、それぞれのルーブリックに対応するサンプルと解説教材が作られている。この教材を活用することで、子どもたちの効果的なそして自律的な制作活動が行われると考えた。

学校紹介をつくる際には、単元の冒頭で「つくつた」教材を活用して、どのような作品が優れているのかを見合う活動を行い、制作活動に入った。ある程度作品が作成した後に、つくつた教材の評価基準やサンプルを参考に自分たちの作品を自己評価し、ブラッシュアップに役立てた。

自己評価の場面では自分たちが作成してきた作品について、つくつた教材と照らし合わせながら、その出来具合を教材に示されているS～Cの評価項目(ルーブリック)で自己評価を行いながら、質を高め、自主的・自律的な学習活動を行った。また、この自律活動においてiPadを使って「つくつた」を見ることができるようにしたので、自由に自分たちの作品をブラッシュアップすることができた。



写真1 iPadで「つくつた」教材を見る。

その後、完成した作品は、両校に回覧するとともに、3校の保護者および子どもが集まるPTAのお祭りの際に体育館に展示して、多くの人々に見てもらうことができた。

2.2 H24年実践

(1) 4年 総合「自己紹介をしよう」

いよいよ再編統合を1年後に控え、直接3校の子どもたちが集まって交流する場が年に3回設定されたが、それだけでは、子どもたちの不安は解消しない。そこで、web上で時間の制約を受けずに交流することができないかと考え、「コラボノート」での交流を開始した。

コラボノートには、それぞれの学校の学校紹介、一人一人の自己紹介などを記入し、それに対する質問を他の学校の子どもたちが記入することで互いをよく知ることができ、相手に対する興味関心を増すことにつながり、子どもたちの輪を広げることにつながった。



写真2 コラボノートでの自己紹介

(2) 4年国語「新聞を作ろう」

自己紹介のような日常的な交流の他に、やはり授業で交流を行うことで、4月からの学習に生かせるのではないかと考えた。そこで国語の授業における交流を試みた。

本単元「みんなで新聞を作ろう」は、新聞作りを通して、取材したことを整理して、分かりやすい記事を書くこと、読み手の興味を引くような工夫ができることを目標とした単元である。子どもたちには、作った新聞を再編予定の他の2校に伝えるという明確な目的意識を持たせ、授業を進めた。

授業は以下の流れで行った。

- ① 学習の見直しをもち、新聞の形式や特徴を知る。
教材文と実際の新報からレイアウトや写真の使い方、記事の書き方などを学ぶ。
- ② 新聞作りの計画を立て題材を集める。
- ③ 下書きを推敲し、見直す。(グループ内で)
グループでの推敲は、5W1Hがしっかりと表記されているか、事実と伝聞、自分の考えを書く際の表記の違いは適当か、相手意識を明確にして、同じ4年生が読むという点で適当な言葉遣いになっているかどうかを視点とした。
- ④ 下書きを推敲し、見直す。(学級で)
まずはじめにS-A-B-Cのルーブリック評価の意味について知らせ、「つくつた」教材の使い方を知らせた。

次に、「つくつた」の「新聞」の「見出し」の項目だけのS~Cの評価とサンプルを参照させ、どのような見出しがよいのか確認させた。

その後、別なグループが作成した新聞の見出し部分の評価を行い、付箋にS~Cの評価となぜその評価にしたのか理由と改善点を記入した。



写真3 「つくつた」で新聞の「見出し」のルーブリック評価とサンプルを見る

- ⑤ 感想を交流し、学習を振り返る。
授業内では「見出し」だけの活用を行ったが、子どもたちには、休み時間等に必要に応じてiPadを貸出し、その他の項目についても自由に評価活動とそれをもとにした校正を行わせた。自己評価・相互評価を行う際に「つくつた」教材を教室および他の活動場所でiPadで閲覧させたことは、子どもたちの活動範囲を広げるとともに、自律的な活動を促すことにつながった。
そして完成した新聞を部分ごとにデジカメで撮影し、コラボノートに画像を添付して、他の2校の子どもたちに見てもらい、感想や改善点を記入してもらった。

■こんにちは！鳥矢崎小学校の〇〇です。新聞を見ました。私は科学クラブです。ですが、べっこうあめなどは作ったことがありません。作れるなんていいと思いました。給食のランキングは1位がカレーで、鳥矢崎小のみんなと同じなんだなあと思いました。みんなカレーが大好きなんですね。楽しく新聞を読ませてもらいました！

■こんにちは！栗駒小の〇〇です。新聞楽しく見ました。給食のフォカッチャは食べたことがないので、食べてみたいなあと思いました。また、はやく岩ヶ崎小学校のみんなと遊びたいなあと思いました。

表1 コラボノートに書かれた他の2校の子どもからの感想

3 実践を終えて

3. 1 成果

- ① 他校との直接交流が年3回程度であったが、コラボノートによるweb上の交流を開始したことで、定期的な交流を実施することができた。これにより、相手をよりよく知るにつながり、再編への不安感を少なくすることにつながった。コラボノートでの交流が始まった後、直接対面して交流を行った時には、「〇〇が好きな〇〇ちゃんだ」「新聞見てくれてありがとう」など、web上の交流を生かした互いの声かけが多く聞かれた。直接の交流の間を埋める交流学習になったと感じた。また、3校による双方向性の交流学习が時間に縛られることなく行われる結果にもなった。

4月にこの3校は再編を迎えたが、他の学年よりもスムーズに互いを受け入れることができているという、現担任の話も聞いた。このことから本実践が、互いの絆を深めるのに役立ったと考えられる。

- ② つくつた教材・iPadの活用で、子どもたちが自分たちで評価と改善を行う自律活動を行うことができるようになった。また、実例を通して改善の視点を把握することができ、評価能力の向上にもつながっていった。教師側としても、教科単元の中で指導しきれないメディア制作における学習課題を、このつくつた教材で解決することができたことで、教科単元の目標達成にしばった指導が可能になった。

また、常に「他の2校によりよく伝わるように」という相手意識をしっかりと持たせながらの実践につながることで、より情報活用能力の育成に結びついたと考える。

- ③ 新聞作りにおいては、アナログの部分も重要視しながら、ICT機器を生かした実践を行った結果、それぞれの特性を生かした学習活動を行うことができた。特にiPadを使用したことで、学習の場が限定されずに、子どもたちが必要とした場所で必要に応じて、つくつた教材を活用することができ、休み時間や昼休みに思い思いに活用する子どもたちの姿が学校中で見られた。

3. 2 今後に向けて

今回の実践で子どもたち同士の交流を深めるために直接交流だけでなく、ICTを活用した交流も効果的であることが分かったので、今後も現在校において他校との交流を推進していきたい。さらにweb教材「つくつた」を活用した情報活用能力育成に向けた実践を積み重ね、よりよい活用法を探り、情報活用能力の育成を目指していきたい。

※つくつた(情報活用を助けるweb教材)

<http://www.ina-lab.net/special/tsukutsuta/>